



平成25年

10月26日(土)、27日(日)

場所 生存圏研究所木質ホール
3階セミナー室 (京都府宇治市五ヶ庄)

定員 70名 (先着順)

受講料 5,000円 (1日参加は3,000円)

10/26
(土)

13:00 ~	受付
14:00-14:20	主催者あいさつ
14:20-15:20	「人との距離が縮まる動物たち」 高柳 敦
15:20-16:20	「熱帯のシロアリ-人間との多様な関わり合い」 吉村 剛
16:20-17:20	「伝統文化を支える京都の森」 深町加津枝

10/27
(日)

9:00 ~	受付
10:00-11:00	「木質文化財の樹種調査からみえること」 田鶴 寿弥子
11:00-12:00	「住宅の居住性 -省エネで湿気を減らす-」 師岡 敏朗
13:30-16:00	実習 1. レンズで覗いてみよう木の世界 (定員 30名) 2. 萬福寺で見る「人・木・森」のつながり (黄檗山万福寺見学、拝観料は個人負担、定員 20名) 3. シロアリという生き物を解剖する! (定員 20名) いずれのコースも材鑑調査室見学 (約 30分) あり
16:00	解散予定

申し込み方法 氏名 (ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号、希望される実習コースの番号 (第3希望まで)、1日のみ参加の場合はその旨を明記の上、下記の方法により公開講座係までお申し込み下さい。

1. 電子メール (返信を希望するメールアドレスを明記し、shinrin-koukai+2013@rish.kyoto-u.ac.jp まで)
2. 往復はがき (返信を希望する住所宛名を返信用はがきに明記し、〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所事務局 公開講座係まで)

申し込み締切 9月30日 (月)

京都大学生存圏研究所 / 京都大学大学院農学研究科森林科学専攻 共催
(京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所)



平成25年度京都大学森林科学公開講座 ～人・木・森～

1日目 10月26日(土)

講演1

「人との距離が縮まる動物たち」 高柳 敦

野生動物は、かつては山の奥にいるものとされてきました。しかし、近年、農山村だけでなく、都市近郊にも野生動物が出没するようになってきています。昨年は、大文字山にクマが出て新聞などでも取り上げられました。このような変化が起きてきた背景には、いくつかの要因が考えられています。それらは、私たちと自然との関わり方の変化についても教えてくれます。野生動物が身近に出没する現象について紹介しながら、その対処方法、そして共存の在り方について一緒に考えたいと思います。

講演2

「熱帯のシロアリー人間との多様な関わり合い」 吉村 剛

シロアリは熱帯を代表する生き物です。木材害虫としての側面はもちろん重要ですが、アジアでは大きなシロアリ塚は精霊の住む場所として崇拜の対象となっています。また、土壌の中には土を食べるシロアリがいて、畑地の水はけを改善してくれます。さらに、キノコシロアリからはとても美味しいキノコが採集できます。興味深いことに、オーストラリアではシロアリ塚の分析から金の鉱脈を探すことも行われています。このようなシロアリと人間との関わり合いを通して、持続的な生存圏について考えてみたいと思います。

講演3

「伝統文化を支える京都の森」 深町 加津枝

京都では、豊かな自然を基盤にした伝統文化が育まれ、ユネスコ世界遺産に登録された「古都京都の文化財」では、建築と庭園設計の集積についての高い評価がなされています。このような文化財は周辺にある森と長年にわたる密接な関わりがあり、京都三山の森が重要かつ不可欠な景観構成要素となってきました。一方、豊かな自然が身近にあるものの、森と人々の生活や生業との関わりは希薄になり、森の姿や文化財との関わりも変化してきました。歴史を振り返りながら、「古都京都の文化財」を支える身近な森のこれからについて考えたいと思います。

2日目 10月27日(日)

講演4

「木質文化財の樹種調査からみえること」 田鶴 寿弥子

博物館などで木製文化財を目にした時、みなさんは何に注目しますか？形・色・風合い、たくさん重要な観点がありますが、材料つまり木材の樹種も日本人の木材選択における歴史を語る上で欠かせない観点です。木材の樹種調査では、光学顕微鏡観察が従来から行われてきました。しかし、文化財の調査では、健全かつ適度な大きさの試料を得ることが困難な場合も多くあります。そこで、近年、放射光を用いたマイクロCTという手法を使って識別を行っています。その識別調査からみえてくることをご紹介しますと思います。

講演5

「住宅の居住性 一省エネで湿気を減らすー」 師岡 敏朗

木材は生物体であることをやめた後も、さながら生きて呼吸するかのように、水分を吸ったり、はいたりしています。木材を住宅の内装材料に用いると、機械空調に頼らずに、室内の過剰な湿気の抑制や、過乾燥状態を防ぐ効果、即ち、調湿効果が期待されます。本講義では、材料の調湿機能を表す適当な指標を考えるとともに、木材の調湿機能をより高める方法を紹介します。

実習概要 (午後)

実習1

レンズで覗いてみよう木の世界

ピラミッドでも知られるエジプト文明を支えた木、レバノンスギ、日本でもよく見かけるヒマラヤスギの仲間です。芳香があり、腐りにくく、舟や建築物、様々な製品として利用されました。今、日本と同じように、スギが文明をささえたと勘違いされた方はちょっと待ってください。レンズで覗いてみるとすぐに、スギの仲間でないことがわかります。身近にありながらあまり知らない木のミクロな顔、すこし覗いてみましょう。

実習2

萬福寺で見る「人・木・森」のつながり

大学にほど近い、黄檗宗萬福寺の見学を行います。独特な建築様式と木材の使用で知られる萬福寺は、江戸初期のアジアの風景を想起させます。巨大な寺院を建築するための技術とは？それを飾る様式の背景は？木材はどの様にやってきたのか？等、大学での説明の後、現地で実際に見学する事で人間と木造建築との関係に対する理解を深めます。さらに伝統構法建築物を後世に残すための現代の課題について考えます。(現地にて解散となります)

実習3

シロアリという生き物を解剖する！

害虫としてのシロアリ、そしてエコシステム・エンジニアとしてシロアリ、そのどちらのシロアリも、生き物としての特徴である「真社会性」と「生物消化共生系」によって成り立っています。実習では、宇治キャンパス内の倒木からシロアリを採集し、いろいろな木材の臭いに対する反応を調べるとともに、消化管の中にある微生物の顕微鏡観察を行います。文字通りシロアリの解剖を行います。特にヤマトシロアリの腸内原生動物は必見！